



## ②意図された感情表現の原則とは？



### A. バイスティックの7原則②、ですね。

人と関わる援助者の行動規範として有名なものに「バイスティックの7原則」があり、今回はその2つめ「意図された感情表現の原則」です。

これは意図的に子どもや保護者の自由な感情表現を認めていこう、という考え方です。子どもや保護者が、自身を取り巻いている外的・内心的な状況を客観的に見やすく整理するために、心の中のわだかまりや壁、ストレスを取り払ってもらおう。そのために感情を自由に表出してもらおう、ということです。

本人の問題や悩みの原因になっているものに、マイナス感情や否定的な感情で自分自身を抑圧していることがあげられます。怒りや悲しみなどのポジティブで無い感情や独りよがりな感情、これらを意図的に吐き出してもらおうのです。どんなことで悩み、どういうことに不満を感じているのかを知って理解することが、本人にとって本当に必要な支援につながるニーズを見つけ出していくこととなります。

支援する人は、子どもや保護者が自由に自分の気持ちを表出できる環境を作ることが大切になってくるわね。話してみようかな、と思ってもらえる人間関係を構築することが必要になる。日々の生活のなかでの信頼関係の構築や、リラックスできる環境の設定、話しやすい雰囲気をつくることも必要になってきます。

ただ話を切り出すのではなくて、話し手に感情表現をしてもらうためにはいろいろな工夫が必要になってきます。聴き手も自分が悩んでいることを話してみる、不安なことを話してみるなど自分の感情表現を工夫することで、話のきっかけになることもありますね。心を開いてくれるきっかけ作りは必要なテクニックのひとつになります。

座る位置や子どもや保護者との目線の合わせ方や、場の雰囲気の作り方も考えなければいけないこと。感情を引き出しやすい質問の準備や、オープン・クエスチョンかクローズド・クエスチョンかなど、質問の仕方もある必要なテクニックのひとつ。なによりも子どもや保護者が話しやすくなるような配慮ができていないか、がカギになります。

また年齢的に言葉で伝えられない、もしくは言葉を持っていないのであれば、行動をしっかりと見ることが必要になってきます。

どんなときにどんなシチュエーションで、どのタイミングで、といった事実を積み重ねていくのですね。

その中からこうではないか、と推察し見立てます。

その見立てを基に[モニタリング](#)しながら検証していくことになります。

うまく話せないから、言葉がないから意思がない、というわけではありませんよね。

どのような形であれ、心の奥底の思いを意図的に表出してもらうのです。

それは子どもや保護者、その人の心の内を知るヒントを得るために必要なことなのですね。

話すこと、いまの思いを行動することで、その人のいまの立ち位置を明らかにする。

解決策や援助方法を導き出すために、その人の感情表現を通して問題を明確にしていくのです。

## [《MENU》](#)

[《①個別化の原則とは？》](#)

[《③統制された情緒関与の原則とは？》](#)

2023-06-12 掲載